

特集

脳神経内科

認知症からしびれ
まで
ケアします



—— お二人ともこの病院に脳神経内科医が不在だったことと佐藤泰吾先生がひとつのきっかけになったというのは共通していますね。面白いですね。

それぞれの得意分野について

—— お二人の協力体制とか役割分担というのはあるのですか？

林 私 は認知症やてんかん、渡辺先生は末梢神経や筋電図検査を得意としているという部分があります。この部分はうまくお互いを助け合えていると思います。

—— 認知症の先生と末梢神経の先生ということですか？

渡辺 というわけでもなく、二人とも幅広くやる中でそれぞれ得意分野がある。横断的活動だった検査だったり。例えば、認知症ケアの回診を認知症の認定看護師と林先生でされていたり、認知症患者さんの運転免許に関する対応も林先生がメインでされています。

—— 高齢者の運転のことは社会的にもトピックですよ。

急性期から慢性期までしっかりケアする環境があります

脳神経内科医長
林 大吾医師
渡辺 慶介医師に
インタビュー

林 高齢者の交通事故の問題が多く出てきています。免許の更新のときにひっかかることが出てきてそのための書類・診断というのがどうしても必要になってくる。かかりつけの先生が書類を書いてもよいのですが、もし運転がダメという場合には結構勇気がいる。ずっと自分の診療所に通って来た患者さんに運転免許はダメだよって書類を書くのは、やっぱり繋がりの中でなかなか苦しいものがある。その部分で病院の専門医が診断し、書類を書くというニーズがあります。



林 大吾 — はやし だいご

昭和大学病院にて初期研修。昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門、関東労災病院、富士吉田市立病院などで勤務。平成28年4月より現職。医学博士。

当院の脳神経内科の成り立ち

—— 脳神経内科の診療について紹介してください。

林 世間一般では「神経にさわる」、性格が細かいことを「神経質」というように、精神科に誤解されやすいのですが、精神科とは違います。実際に診ているのは脳と脊髄、それから末梢神経。これらを診るのが脳神経内科の領域になります。

渡辺 具体的な病気として一番多いのが脳梗塞、その他にてんかん、認知症、パーキンソン病、しびれを出す状態で末梢神経障害などになります。

—— いろいろありますね！
ALS（筋萎縮性側索硬化症）のような神経難病や髄膜炎のような感染症も入るんですね。守備範囲が広いですね。

どのような症状で相談すればよいでしょうか？

渡辺 物忘れ、しびれ、頭痛、歩行障害などが代表でしょうか。開業医や当院の初診外来の先生から紹介いただくケースも多いです。

当院は長野県の中では少ない筋電図検査の専門施設のひとつです

—— こういったところが当院の脳神経内科の強みであるということをお聞かせください。

林 当院の脳神経内科の強みはリハビリ科がしっかりしているところだと思っています。治る病気も治らない病気も、外来から入院までしっかりリハビリできる環境があります。

渡辺 救急からリハビリや在宅診療を含めた慢性期診療のサポート体制があり急性期から慢性期まで、ときには看取りまでというようなケアミックスを提供できる部分だと思っています。それからやや専門的な話ですが、当院は長野県の中では比較的少ない筋電図検査の専門施設のひとつになっているので末梢神経、筋疾患についての科としては得意な項目のひとつになります。

—— 最後に地域の住民の方へのメッセージをお願いします。

林 治る病気はしっかり治しま

—— 私（現在は腫瘍内科専門医）が後期研修医をしていた約10年前は当院には脳神経内科がなかったと思いますが、それが今2人体制になっています。設立の経緯を教えてください。

林 私は岡谷市出身でゆくゆくは地元に戻ろうと思っていました。そんな中、祖父が脳梗塞でこの病院に入院して主治医が総合診療科前部長の佐藤泰吾先生だったということがひとつのきっかけです。岡谷市民病院、諏訪赤十字病院、富士見高原病院、これら全てには脳神経内科医がいて諏訪中央病院にはいなかった。だからここでやるのが面白いかなと思いました。

—— 渡辺先生は？

渡辺 私は信州大学を卒業した縁で長野県が好きになり10年前にここで後期研修をしました。その時師匠だった佐藤先生（前出）にいろいろ神経のことを教わったのがひとつのきっかけでした。当時、脳神経内科医はいなかったの誰かが外で修行して戻ってきたらいいという気運があって、その流れでこうなりました。



渡辺 慶介 — わたなべ けいすけ

諏訪赤十字病院、諏訪中央病院にて臨床研修。千葉大学医学部附属病院・成田赤十字病院にて神経内科領域の研鑽を積み、平成29年4月より現職。医学博士。（千葉大学大学院）

す。治らない場合もリハビリや福祉のご提案などさまざまなサポートができればと思います。困ったら受診して何か話を聞きに来ていただければいいなと思っています。

渡辺 なかなか馴染みのない方も多い診療科ですけども、少しでも質の高い専門的な医療をできるように心掛けていきたいというのでがんばっております。神経疾患かなと疑われるような方がいましたら気軽に受診ください。

（聞き手 腫瘍内科医師 門倉玄武）

放射線診断

特にMRI検査は神経疾患の診断では最も重要な検査の1つです。脳卒中診療においても必須で、必要な時は365日撮れる体制になっています。



認知症ケアチーム

認知症看護認定看護師、脳神経内科医師からなるチームで回診し、最適なケアの提供に努めます。

認知症、うつ、せん妄^{もう}のケアに関する悩みを多職種で検討するために、2018年に『3Dチーム』（うつ“Depression”、せん妄“Delirium”、認知症“Dementia”の3つの疾患の頭文字に由来）が発足し、毎週金曜日に各病棟を巡回してきました。昨年度、認知症ケアにより力を入れ、患者さん中心のケアを提供できるよう、林医師とMSW（医療ソーシャルワーカー）にも加わっていただき、新たに『認知症ケアチーム』を立ち上げました。認知症のある患者さんに対し入院後早期に介入することで、せん妄の発症・BPSD（注）の悪化を予防し、患者さんのQOL（生活の質、生命の質）を低下させることなく疾患の治療・ケアを適切に受けられることを目指しています。毎週火曜日に各病棟を巡回し、対象患者さんへのケアの状況を確認しております。当院ではまだ始まったばかりの活動ですが、認知症のある患者さんが安心して過ごせる環境・ケア体制づくり、スタッフの対応力向上、さらにはケアする側のストレス軽減に向けて活動を行っていききたいと思います。

いのうえ なおや
認知症看護認定看護師 井上 尚哉

（注）BPSD…認知症の中核症状（記憶障害、見当識障害、判断力の低下など）に伴ってみられる症状で、認知症に伴う行動・心理症状のこと

脳神経内科を
サポートしています

医師だけでなく、様々な職種が
神経疾患のケアに関わります

脳波検査

時に集中治療室での加療も必要になるてんかんの診療においては必須です。検査は少し時間がかかりますが、非常に安全かつ苦痛も少ない検査です。



脳卒中サポートチーム

脳神経外科医師、リハビリテーション科医師、脳神経内科医師、認定看護師からなるチームで、予防に対する取り組みや最適な診療についての検討などを行っています。

脳卒中サポートチームは、脳神経外科医師、脳神経内科医師2名、リハビリテーション科医師、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師がチームとなり、新規発症の脳卒中患者さんを対象に毎週チームでの回診をしています。

回診では、脳卒中の患者さんの診断・治療方針、リハビリテーションの適応・実施などについてカンファレンスを行い、必要に応じて担当医や担当看護師との意見交換や助言などを行いながら、患者さんの回復を支援しています。

その他に、院内スタッフへの脳卒中に関する学習機会の提供に加えて、市民の皆さまへの脳卒中予防の啓発活動も行っています。現在は新型コロナウイルス対策のため活動は制限されていますが、状況が落ち着いた暁には、色々と企画をしていきたいと思っています。

しみず まい
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 清水 舞



末梢神経や筋肉に関する貴重な情報を得ることができ、神経筋疾患の診断においては必須です。神経疾患に関しては筋電図専門医が検査にあたります。

筋電図検査



入院から外来まで、治療可能な病気も治療困難な病気も機能維持と回復の助けとなります。

リハビリテーション

第27回

● ● ● 病院から地域へ ● ● ●

名誉院長

はまぐち みゆる
濱口 寛

原村診療所に通ってくるKさんは、94歳になります。頭はしっかりされていて、私に20年前に肺の手術をしてもらったとおっしゃいます。「もう肺の方では死なないが、そろそろ迎えが来るような気がする」と言いますが、まだまだお元気で迎えはまだ先になるでしょう。

90歳を越えて元気な患者さんがたくさんいますが、皆さん何か持っているようで、頭もしっかりされていて、元気にされています。そういった方々は、何か習慣にされていることがあるようです。

92歳のHさんは、家のそばに20段の階段があります。毎旦朝、夕登り降りをする、もう40年近く続けているようです。先日、トラクターを運転していて崖から落ちたとのことですが、「病院で検査してもらったが骨はなんともなく、入院もしなくて家に戻った」と話さ

れました。身体を動かすことばかりでなく、精神的にも何か信じていることがあるようです。

Tさんは99歳になりますが機械が趣味で、外来受診の度にその話をされます。年をとるとともに、身体のおちこちが痛くなり、朝起きてまずすぐに身体を動かすことがつらくなります。しばらくすると普段通りになるので、ここが悪いということもないようです。こうして人は年をとっていくのだらうと思います。しかし、できれば最後まで寝込むことなく人生を終わりたいものです。



第4回

● ● ● 減災を身近に ● ● ●

その時、私は、あなたは？

まちの減災ナース・看護師

みやざわ ひでのり
宮澤 英典
はせがわ まい
長谷川 舞

先日の豪雨ではこの地域でもさまざまな被害がありました。被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。また、備えや心構えを一層強化していかなければならないとも思いました。

コロナ禍であり、避難所に行くのを心配している方も多いと思います。しかし、避難所に行くのはありません。危険箇所から離れることが重要なので、親戚や知人の家、ホテルや車内など選択肢を多く持つことが必要です。

そして、避難するときに持ち出すものを用意しては遅いです。今回、私もいつでも避難できるように備えの強化をしていたので、ぜひ皆さんも一緒に振り返ってみてください。

- ① 避難バッグの見直し
- ② 車のガソリンを満タンに

③ 携帯や持ち運び充電器の充電を満タンに

④ 仕事へもカッパや避難バッグの持ち歩き

⑤ ニュースや気象情報、河川や道路のライブ映像、ハザードマップの確認

⑥ 休めるときによく休む

以上の6つを実行していました。

避難バッグは水害に向け防水や保温対策を意識しました。水害は特にハザードマップを参考に避難経路や避難先を決定することが重要です。避難するタイミングは警報が出ることで判断できますが、避難先は自分たちで決定しなければなりません。また、不安な気持ちから、なかなか「休む」ということが難しくなります。警戒しつつも体力の温存をしておきましょう。そして災害自体は休む間もなくやってきます。力を合わせて減災行動をしましょう。

第15回

● ● ● 薬のはなし ● ● ●

光線過敏症と薬について

薬剤師

はらた すずか
原田 涼香

日差しの強い日が続いています。みなさんは紫外線対策をしていますか？ 日焼けは誰にでも起こりますが、微量の紫外線でも炎症を起こしてしまう光線過敏症という疾患があります。症状としては皮膚が赤くなる、ぶつぶつができる、かゆみが生じるなどが挙げられます。原因はさまざまですが、薬剤使用により引き起こされる場合があることをご存じでしょうか。薬剤性光線過敏症には2つのタイプがあります。

① 光接触皮膚炎

ぬり薬や貼り薬を用いた部位に光が当たってその部位がかぶれる。

② 光線過敏型薬疹

内服薬を服用後に、日が当たった皮膚に広範囲にわたり発疹ができる。



原因となる薬剤は多種存在し、消炎鎮痛薬、降圧薬、抗菌薬などの一部の薬剤に現れることが報告されています。中でもケトプロフェンという成分が含まれている湿布薬は光線過敏症を起こしやすい、また、はがした後4週間程度は貼っていた部分に日光を当てないよう注意が必要です。光線過敏症の副作用がある薬剤を使用する際には、衣服やサポーターなどを用いて日光曝露を抑えることが予防につながります。もし症状が現れた場合は受診をし、適切な診断と治療を受けましょう。

第5回

● ● ● 365歩の日々 ● ● ●

介護老人保健施設

特別養護老人ホーム

やすらぎの丘・ふれあいの里 日常と作品

ほっこりな

95歳!!
おめでとうございます!!

山岸啓司様
やすらぎの丘にて先日95歳の誕生日を迎えられました♪おめでとうございます(^ ^)! ギターを弾きながら歩く練習をがんばっておられます☆ ちょっと無口でたまに冗談が飛び出るギャップにいつも撃ち抜かれています。(^ _) - ☆笑



題:「八ヶ岳」
やすらぎの丘デイケアに飾られている油絵…実は利用者さんの作品です。画家さんかと思うほどの出来栄です☆ (T様作品)



秋も本番です! 美味しいものの食べ過ぎに注意しましょう(^ ^)/ 本物のように見えますがこちらはぬり絵作品です♪食べちゃダメですよ。笑 (やすらぎの丘デイケアM様作品)



ブランケットと編みたわし♡編み目とても細かくてお店が開けそうな出来栄です♪ (やすらぎの丘デイケアI様作品)

久しぶりの
おでかけ♪

ふれあいの里デイケアにて6月に感染対策をしながら、気分転換に下諏訪までドライブに出掛けました(^ ^)。皆さん、ここがどこかわかりますか? ヒント: 来年が本番です!

診療所紹介

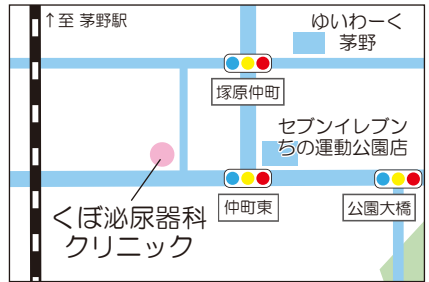
くぼ泌尿器科クリニック

泌尿器科

住所：茅野市仲町14-24

電話：0266-75-1720 院長 久保 昌志

【検査】尿沈渣、尿細胞診、超音波検査、膀胱ファイバースコープ、ホルモン検査、精液検査 【診療予約】可
【車いす来院】対応可 【駐車場】あり



受付時間・曜日	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～12:30	○	○	○	休	○	○
午後 1:30～ 4:30	○	○	○	休	○	休

泌尿器科専門のクリニックです。皆さまの泌尿器科に関する様々な要望・ご期待にお応えできる専門医として、地域のお役に立ちたいと考えております。お気軽にご相談ください。

第4回

医療現場の束の間のひととき

摂食・嚥下障害看護認定看護師 丸茂 広子さんの回



医療の現場は日々
たいいイメージ。そんな
中でお昼ごはんの
ひとときにお邪魔し、
色々な角度から人物像を
探るコーナー。

摂食・嚥下とは食べ物を認識して口に含み、嚥んで飲み込み胃に至るまでの過程のことです。その過程の中で異常が無いが評価し、専門的な介入をする看護師として働く丸茂さん。今日のお昼は納豆を入れた手作りのカレー。お昼の時間が楽しみで、早食いになってむせてしまうそうです(笑)。よく嚥んで食べましょう！
日々の業務では病棟を回りながら患者さんの食事の様子を観察したり、悩みについて聞きながら、食事の時間が楽しいと思ってもらえるよう考え工夫しています。患者さんと接している中で美味しい！という言葉や表情を見るときがやりがいを感じる瞬間だそうです。今はコロナ禍のため皆で食事はできませんが、食事は有意義な時間だと思ってもらえるような環境作りを目指しているそうです。

休日は組み木という木のパズルを作るんだそう。その時の心の状態によつて線が曲がりたりするため、無心で作るのがポイント(写真①)。多忙な毎日ですが、無心になることでストレスを発散できるそうです。

食事をしなくなると嚥下機能が落ちてしまうそうです。一味・七味唐辛子は喉に良いそう

で、辛くない程度に食事に加えるとGood！日々の生活に刺激が少ない今、喉元に刺激を取り入れてみてはいかがでしょうか！



写真①

メディメシ…「メディカル・スタッフ(医療従事者)のご飯」の略

諏訪中央病院 Suwa Central Hospital —あたたかな急性期病院—

〒391-8503 長野県茅野市玉川4300
電話 (0266) 72-1000 (代)
E-mail byosin@suwachuo.jp

ご意見・ご感想を
お聞かせください

基本理念

やさしく、あたたかい、たしかな医療を目指す

医療目標

1. 充実した救急医療
2. 安全な医療
3. 患者さんの権利を尊重した、思いやりのある医療